

「ふるさと甲州の伝統文化に親しみ、郷土を愛し、誇りに思う児童の育成」3年次
～地域や社会とのつながりを通して～

I 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①伝統文化教育と、新学習指導要領を踏まえた「総合的な学習の時間」の研究
- ②地域素材を取り入れた「総合的な学習の時間」指導計画の全面改訂
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善
- ④思考ツールの活用法の研究
- ⑤地域素材を取り入れ6年生の歴史学習に関連させた、甲州市社会科副読本「ふるさと甲州市」の作成

(2) 具体的な研究活動

- ①新学習指導要領を踏まえた「総合的な学習の時間」の研究
 - ・山梨大学附属小学校では来年度、生活科・総合の全国大会を実施することから、先進的な総合の取組を進めている。附属小から窪田講師を招聘し、探究的な学習にしていくための方策や探究の学習過程について、指導や助言をいただいた。また、センターから小野指導主事を招聘し、「総合的な学習の時間」のねらいや育成すべき資質・能力、探究過程の設定方法などについて学んだ。
- ②地域素材を取り入れた「総合的な学習の時間の指導計画」の全面改訂
 - ・各教科等の年間指導計画と関連付けできる地域素材をもとに、1年目に作成した総合の年間指導計画に、人材バンクや連携できる機関等をできる限り追記し改訂を進めた。さらに、より探究的な学習となるように、探究テーマを1から2に絞って設定した。そして、教科等横断的に学習が進められるように、教科等の単元配列一覧表を作成した。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善
 - ・全ての教職員が新学習指導要領のねらう「深い学び」について学ぶために、学習会を2回行った。学習会では、「深い学び」を実現するためには、どのような思考力・判断力・表現力が必要なのかについて協議も行った。また、新学習指導用指導要領の作成に関わった、奈須氏と田村氏の資料を活用しながら、算数科における深い学びがどのようにすれば実現できるのかについて協議した。

上記のことを具現化するために、一人一実践を行ってきた。また、1年国語科「自動車比べ」と4年算数科「わり算の筆算(割合)」の2本の研究授業を行った。筑波大委附属小の盛山先生、義務教の桜井指導主事、センターの平沼指導主事から指導・助言をいただき、全職員が新学習指導要領の完全実施に向けて、具体的な指導法を学ぶことができた。
- ④「思考ツール」の活用法の研究
 - ・総合的な学習の時間の学習を「深い学び」につながる探究サイクルにしていくためには、児童の思考を活性化させ、主体的な活動を促すことが必要だと考え、そのための手立てとして思考ツールの学習会を行った。黒川晴夫氏のシンキングツールを紹介しながら、具体的にどのような学習場面でどのような思考ツールを利用すると効果的であるか検討する機会も設けた。教師が意図的に思考ツールを授業の中に組み入れ、思考の可視化をすることで、主体的な学びが生まれ、それを振り返ってもう一度考えたり、友達と交流したりして、深い学びへつながっていくことがわかった。
- ⑤地域素材を取り入れた学習環境の整備と人材バンクの活用
 - ・2年間の研究の中で収集した地域素材や、作成した教材化シート、授業実践を踏まえて、6年生の歴史学習に関連させた、甲州市社会科副読本「ふるさと甲州市」をまとめること

ができた。これにより、本校の児童だけでなく、甲州市の全ての小学生が地域の伝統文化に触れることができる。また、我が国の歴史とリンクした地域の歴史を学ぶ学習が可能となる。

II 成果と課題

【伝統文化教育を生かした総合的な学習の時間の年間指導計画の作成】

- 年間指導計画の中に、各教科の単元と関連する地域素材名だけでなく、人材バンクや連携できる機関等をできる限り追記したことにより、利用しやすくなった。また、地域素材の概要と各教科の単元との関連、また連携する人材バンク等をまとめることができた。
- 新学習指導要領に完全に対応した内容にすることができた。教科等横断的な視点で作成できたことや探究サイクルとして単元の構想を練り上げることができたことが成果である。
- 年間指導計画の中に、地域素材を生かした実践と学校行事との関連を増やしたり、他学年との系統性を表記したりして、さらに活用しやすくなりたい。教材化シートを積極的に活用したい。

【探究的な学習活動を促す「地域素材との出会い」】

- 総合において地域素材が身近に感じられるように工夫することで、児童の興味・関心を高めることができた。地域から我が国の問題点やその解決策、そして再び地域へという流れで学習過程を設定することにより、深い学びにつながる学習過程にすることができた。
- 総合の単元計画に地域人材を活用する内容を設定したことは、「社会に開かれた教育課程」の趣旨に合っている。
- 地域課題を自分事として捉えさせる工夫により、児童の主体的な活動を促すことができた。
- ゲストティーチャーに対する予算の確保や、講話の内容や活用方法を含めた打ち合わせの時間確保については課題が残った。
- 総合的な学習の時間の終末では、授業で学んだことを児童自身が発信する場面が必要である。どこにどのような形で発信していくかについて、研究を進めたい。

【主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究と授業改善】

- 児童が自分事の問題として捉えられるような導入と、発問を工夫することにより、児童の思考を活性化させることにつながった。
- 児童の活動について、何がどのようによかったかを具体的な言葉にして返すような「問い返し」を心掛けたことにより、児童の思考を活性化させることにつながった。
- 「深い学び」の子供の姿とは何かの理論的な研究を行うことができた。浅い学びの姿と深い学びの姿を具体的に提示し、共通理解を図ることができたのはよかった。
- 深い学びにつながる「見方・考え方」についても、奈須氏や田村氏の資料から研究を行い、共通理解をもつことができた。
- 算数科の授業案検討において、例示をどちらにするか、どのような問い返しをするか議論になった。また、「汎用的なスキル」とは何か、全学年の学習内容を俯瞰することにより、身に付けるべき内容を的確に把握して、授業の実践化につなげることができた。
- 児童が試行錯誤して思考する場面の設定が必要である。確実な定着につながる。

【地域素材を取り入れた学習環境の整備】

- 伝統文化に関わる地域素材を取り入れた歴史副読本「ふるさと甲州市」が3年目にして完成した。社会科のねらいを達成することを第一に考えた本である。特に、6年生の歴史学習を我が国の歴史と地域の歴史を比較して捉えることが目的であるが、地域を愛する心や誇りに思う気持ちを育成することにつながるものと期待できる。

III 成果物

- ・研究授業の指導案、甲州市社会科副読本「ふるさと甲州市」
- ・各教科と伝統文化教育とを関連付けた「総合的な学習の時間年間指導計画」
- ・地域素材を生かし、指導計画が見通せる「教材科シート」 (研究主任 那須 栄樹)